

豚熱

現地対策班 防疫支援グループ

防疫作業マニュアル

## 目 次

1	防疫支援センター	1
	( 1 ) 設置の目的と設置条件	
	( 2 ) グループ構成 ( 殺処分開始前 ( 準備 ) )	
	( 3 ) 殺処分開始前の準備	
	( 4 ) 殺処分の開始以降の運営	
2	発生農場サポート拠点	6
	( 1 ) 設置の目的と設置条件	
	( 2 ) グループ構成 ( 殺処分開始前 ( 準備 ) )	
	( 3 ) 殺処分開始前の準備 ( 遺伝子検査陽性以降 )	
	( 4 ) 殺処分の開始以降の運営	

### < 添付資料 >

- ・家畜伝染病発生時の救護対応マニュアル

# 防疫支援グループ

## 1 防疫支援センター

### (1) 設置の目的と設営条件

#### ア 目的

- ・防疫作業者の集合場所
- ・防疫作業者等の健康チェック、作業準備、消毒、更衣
- ・防疫作業者等の移動のためのバスの運営・管理
- ・発生農場のサポート拠点と消毒ポイントの資材の受入れ、管理
- ・発生地グループと家畜防疫対策班との連絡窓口

#### イ 設営条件

- ・発生農場に近い
- ・主に体育館や公民館の使用を想定
- ・大型車両と普通車200台以上の駐車スペースが確保できる

### (2) グループ構成(殺処分開始前(準備))

リーダー	畜産振興課	1名
サブリーダー	畜産振興課	1名
構成員	家畜保健衛生所	2名
	現地農林事務所	4名
	市町村	4名
	管轄保健所等	

### (3) 殺処分開始前の準備

防疫支援センターの設営、発生地グループの要員と資材の受け入れ準備を以下のように行う。

#### ア 防疫作業者の受入準備

リーダーは管理グループ及び発生農場サポート拠点のリーダーと連絡を取り、防疫作業者の人数等を把握する。

#### イ 防疫資材の受け入れ準備

資材の受入れと確認、個数等の管理、資材の置き場所の配置図作成等を行う。また、発生農場やサポート拠点から不足している資材の情報があれば、現地対策班の管理グループ、家畜防疫対策班資材調達グループへ連絡し、作業が滞りなく進むように調整する。

#### ウ 防疫支援センター運営準備

(ア) 防疫支援センター駐車場等の準備

防疫支援センターには、防疫作業者が移動するバス等、多くの車両が入りする。このため駐車場出入口、車両消毒場所、バス専用駐車場、その他グループ員の車両駐車場等を立て看板等でわかりやすく表示する。

#### (イ) 消毒機材の設置

##### 車両消毒

防疫支援センター敷地への入口付近に動力噴霧器を2台設置する。

##### 靴底消毒

- ・バス乗降場所に靴底消毒用の手押し消毒ポンプを4台用意する。
- ・バス乗降場所から手洗い場所までの通路に消毒マット等を準備する。

##### 手指の消毒

防疫支援センターとなる建物の手前に、手洗い・手指消毒コーナーを設置する。

- ・屋外に手洗い場所がない場合は、新たに簡易な流し台等の手洗い設備、またはポリタンクを利用した手洗い場所を設置する。
- ・手洗い場所にはポンプ式の石鹼、ペーパータオル、ごみ袋、手指用消毒薬を準備する。

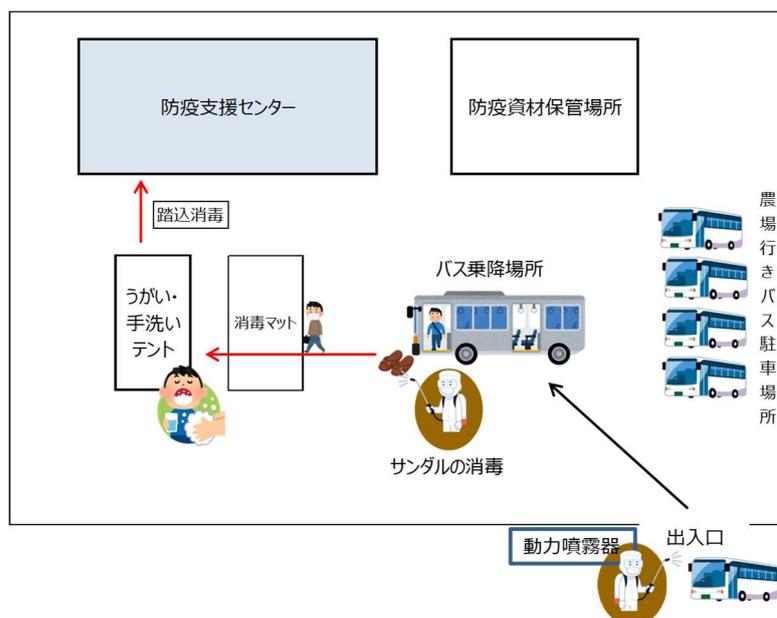
##### うがい

- ・テント1張り、机3台を設置する。
- ・うがい薬の調整（保健所の指示に従う）を行う
- ・紙コップ、紙コップを捨てるごみ袋、使用済みうがい液用のポリバケツを準備する。

##### 建物に出入りする際の消毒

玄関(あるいは出入口と設定したドア付近)に建物に出入りする人の靴底消毒、全身消毒の準備をする。

- ・靴底消毒：消毒マットあるいは踏込消毒槽を設置
- ・全身消毒：フォグマスターをセンター出入口の左右に設置



### (ウ) 防疫支援センター施設内部の準備

防疫支援センターは主に受付、荷物預かり、防疫資材の配布、及び更衣を行う。設営は以下のとおり。

#### 防疫作業者の履物

防疫作業者の履物は、各自レジ袋等に入れて防疫支援センター内に持ち込むようにする。

- ・レジ袋等、靴を入れる袋の準備
- ・案内表示の準備

#### 受付

防疫作業者の受付を行う。

- ・机 3 台、ボールペン 20 本、受付簿を準備
- ・受付名簿を家畜防疫対策班、管理グループから入手し、それらを基に動員県職員、協定派遣団体職員、他県獣医師などの職員番号、所属、氏名を確認・チェックする。名簿に無い人員についてはその都度確認して記入する。

#### 手荷物預かり

手荷物預かり場所を設置する。

三角コーンなどを利用して仕切る。



手荷物預かり

#### 救護コーナー

- ・防疫作業者の救護ために設置する。
- ・「家畜伝染病発生時における救護対応マニュアル」(別添)に基づき準備をする。

- ・保健師等 2 名を配置。委託業者の看護師が到着後は、その看護師が対応。
- ・救護室：簡易ベッド 1 台、衝立、救急箱、A E D、体温計、血圧計、毛布等を設置する。

#### 防疫資材配布

受付をした防疫作業者に防護服 2 着、帽子 1 枚、マスク 1 枚、薄手手袋 1 双、厚手手袋 1 双を配布する準備をする。

- ・防護服等のサイズが分かりやすいように表示、作業者が取りやすいように並べ方を工夫する。

#### 防護服への記名及び着用

防護服の前後に記名する準備をする。

- ・長机 8 台、油性マジック(太文字) 20 本
- ・記名の仕方を示すため、見本となる記名済みの防護服を準備、掲示する。

#### サンダルの準備

防疫作業者が使用する移動用サンダルを準備する。

(4) 殺処分開始以降の運営

グループ構成(動員職員到着前)

リーダー	畜産振興課 1名
サブリーダー	畜産振興課 1名
構成員	農林事務所 11名 農林水産部 4名 家畜防疫対策班 1名 防災・危機管理部 2名 保健師等 2名 市町村 4名 畜産課(畜産センター)1名(連絡員)

\* 救護担当保健師は、外部委託看護師が到着次第移行(動員職員到着後)

リーダー	畜産振興課 1名
サブリーダー	畜産振興課 1名
構成員	農林事務所 11名 農林水産部 4名 家畜防疫対策班 1名 防災・危機管理部 2名 保健師等 2名 市町村 4名 畜産課(畜産センター)1名(連絡員)

\* 救護担当保健師は、外部委託看護師が到着次第移行

ア 農場への出発前

(ア) 防疫支援センターでの防疫作業者の受入

受付・資材配布

- ・履物を入れるレジ袋の配布
- ・動員職員人数の確認
- ・動員県職員、農林事務所、他県獣医師、市町村、協定派遣団体職員の名簿を管理し、管理グループへ報告する。
- ・手荷物の預かり
- ・作業員へ防疫資材(防護服2枚、キャップ1枚、マスク1枚、薄手手袋1双、厚手手袋1双)を配布

防疫作業説明・移動

- ・防護服着脱の説明を行う。
- ・外側防護服には班名と氏名を記入するように指示
- ・防護服2枚と帽子の着用の指示、サポートを行う。

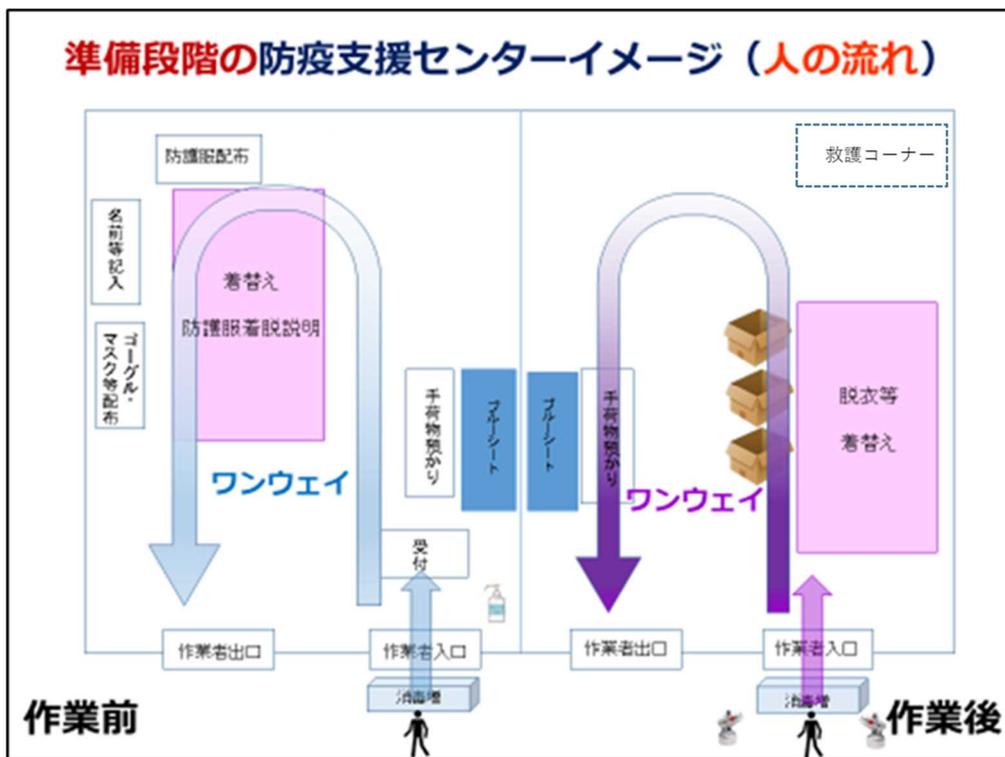
- ・ 移動用サンダルを配布する
- ・ 防疫作業者を移動用バスに誘導する。

#### イ 農場から帰還後

##### (ア) 農場から戻った作業者の消毒

発生地から戻った防疫作業者の消毒

- ・ 降車した作業者のサンダル底を手押しポンプで消毒
- ・ 消毒用マットを通り、うがい・手洗い用テントに誘導、手指の消毒・うがいを指示
- ・ 防疫支援センター内へ誘導
  - 防護服の脱衣、着替えを指示
  - 手荷物について職員番号を確認しながら返却する
  - 作業終了者の受付、名簿等による確認
  - 移動用バスへ誘導



#### ウ その他の作業

##### (ア) 出入り車両の消毒

- ・ 防疫支援センター入口に到着したバスの車両消毒

##### (イ) 情報の掲示

- ・ 発生農場の概要(見取り図)、防疫作業の進捗状況等ホワイトボードに掲示
- ・ サポート拠点と家畜防疫対策班との情報共有

##### (ウ) 消耗品の交換・補充

- ・踏込消毒槽、消毒マット、フログマスター、手押しポンプ及び動力噴霧器等の消毒薬の交換、補充
- ・履物を入れるレジ袋、荷物管理用袋の補充
- ・防疫資材（防護服、帽子等）の確認と補充
- ・手洗い場の石鹼、消毒薬、うがい液、コップ、ペーパータオルの補充
- ・防疫資材廃棄用バック、コップ、ペーパータオル等廃棄物の処分

## 2 発生農場サポート拠点

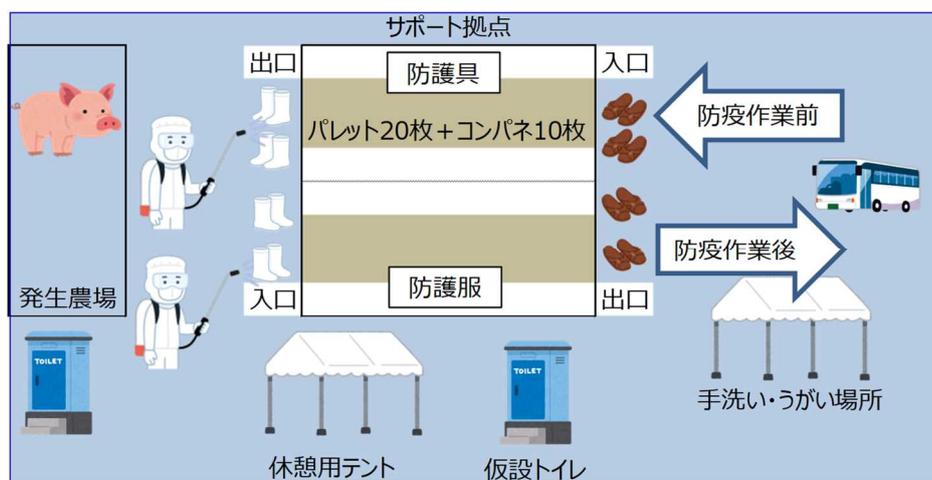
### (1) 設置の目的と設営条件

#### ア 目的

- ・防疫作業者が発生農場へ出入りする際の支援・補助
- ・防疫資材の受入れ、管理、支援センターへの連絡窓口
- ・防疫作業前後の個人防護具（マスク、手袋、ゴーグル等）の着衣・脱衣
- ・防疫作業者のスケジュールの管理、作業終了や休憩等の連絡・調整
- ・救護者の消毒・応急処置

#### イ 設営条件

- ・発生農場サポート拠点は原則として発生農場の衛生管理区域外に設営する。
- ・「清浄エリア」と「グレーゾーン」に区分して設営する。（下図参照）



### (2) グループ構成(殺処分開始前(準備))

リーダー	畜産振興課	1名
サブリーダー	畜産振興課	1名
構成員	家畜保健衛生所	2名
	現地農林事務所	2名
	畜産センター	3名
	市町村	2名

### (3) 殺処分開始前(遺伝子検査陽性時以降)

## ア 清浄エリアの準備

(ア) 長時間作業従事者専用休憩用としてテント(2張)長机8脚、パイプいす32脚、救護場所としてテント(1張)長机2脚、パイプいす4脚、手洗い・うがい用にテント(1張)長机2脚を設置する。テント、長机及びパイプいすは市町村等が準備する。

(イ) 簡易トイレを設置

休憩場所および簡易トイレについては、農場内にも設置する。

(ウ) 個人防護服着衣・脱衣場所を準備する。

### レーンの設置

- ・レーンは入場レーン(着衣)退場レーン(脱衣)の2列を準備する。
- ・各レーンにテント2張(合計4張)設置する。
- ・各レーンにパレット20枚を縦長に設置し、その上に防疫作業者が歩くコンパネ10枚を敷く。

### 入口と出口の表示

レーンには「入口」「出口」の標識を貼ったカラーコーンを設置し、明確に表示する。カラーコーンは備蓄センターから搬入する。

### 入場レーン

防疫作業者は、清浄エリアの入場レーンで防護具を装着し、グレーゾーンを経て、汚染ゾーンの発生農場に入り防疫作業を行う。

- ・サンダル脱ぎ場をレーン入口に設置する。防疫作業者はここで履いてきたサンダルを脱ぎ、レーン内に入る。
- ・テント内にマスク、ゴーグル、インナー手袋、アウター手袋及び目張り用のテープを準備する。
- ・会議用長机や段ボールなどを並べ、その上に装着する順番(マスク ゴーグル インナー手袋 アウター手袋)に防護具を並べる。
- ・各資材の資材名が判るように表示する。手袋はサイズが防疫作業者にわかるように表示して取りやすいようにする。
- ・レーン出口に長靴置場を設置する。マスク、ゴーグル等の装着を終えた防疫作業者はここで長靴を履き、長靴およびアウター手袋をテープで目張りする。

### 退場レーン

グレーゾーンで外側防護服を脱衣した防疫作業者は、清浄エリアの退場レーンを通り、発生農場サポート拠点を抜ける。

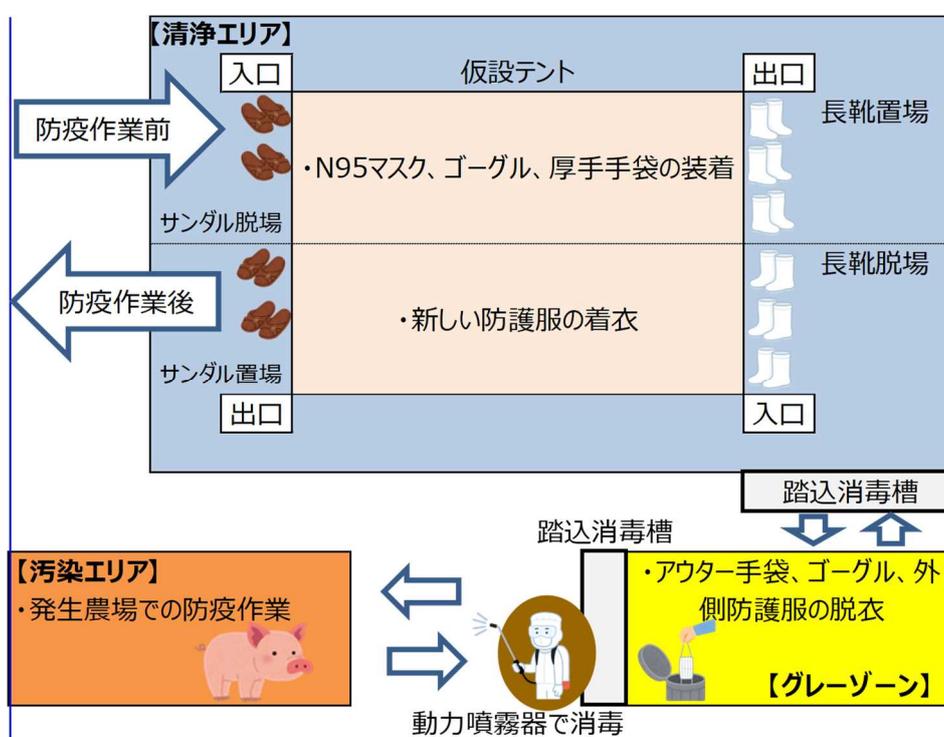
- ・長靴脱ぎ場をレーン入り口に設置する。防疫作業者は、ここで長靴を脱いで清浄エリアに入る。
- ・内側防護服を廃棄するフレコンバックを準備する。
- ・防疫作業者が内側防護服を脱衣した後、移動用に着衣するための防護服を準備する。
- ・レーン出口に、防疫作業者が防疫支援センターに移動するためのサンダルを用意する。
- ・手洗い又は手指の消毒コーナー、うがいコーナーを設置する。

## イ グレーゾーンの準備

汚染エリア（防疫作業を実施する畜舎等）と清浄エリア（発生農場サポート拠点）の境界にグレーゾーンを設置する。防疫作業者が防疫作業を終え、汚染エリアを出た直後、清浄エリアに入る前に身体の消毒を行う。

防疫作業者はゴーグル、マスク等を着用したままグレーゾーンに入るのを、以下の準備を行う。

- (ア) 汚染エリアからグレーゾーンに入る入口に踏込消毒槽を設置  
長靴の消毒を行う。
- (イ) 踏込消毒槽より先に動力噴霧器またはゲート式消毒器を設置  
防疫作業者の全身を消毒する。
- (ウ) 動力噴霧器の先に防疫資材廃棄用のフレコンバッグ等を設置  
外側防護服、アウター手袋、インナー手袋、マスク、ゴーグルを廃棄する。



(4) 殺処分開始以降の運営

グループ構成(動員職員到着前)

リーダー	畜産振興課	1名
サブリーダー	畜産振興課	1名

構成員	農林事務所	5名
	農林水産部	1名
	家畜防疫対策班	2名
	市町村	1名
	防災・危機管理部	1名
	畜産課（家畜防疫対策班）	1名（連絡員）

(動員職員受け入れ後)

リーダー	畜産振興課	1名
サブリーダー	畜産振興課	1名
構成員	農林事務所	5名
	農林水産部	1名
	家畜防疫対策班	2名
	市町村	1名
	防災・危機管理部	1名
	畜産課（家畜防疫対策班）	1名（連絡員）

#### ア 発生農場サポート拠点の運営

##### (ア) 防疫作業者の最終準備

- ・防疫作業者を入場レーンに誘導する。
- ・サンダルを脱がせてパレット上に誘導後、防護服等の着衣の説明を行う。
- ・アウター手袋、長靴の目張りのサポートを行う。
- ・グレーゾーンから汚染エリアへ誘導する。

##### (イ) 作業後の消毒等

###### グレーゾーンでの作業

- ・作業終了後の防疫作業者に対し、グレーゾーン入口で踏込消毒槽を通るように指示
- ・長靴の底を動力噴霧器で消毒
- ・動力噴霧器で作業者の全身を消毒（発生地 G 消毒担当者が実施）
- ・アウター手袋や長靴の目張りを剥がすサポートを行う（ " ）
- ・アウター手袋、ゴーグルの脱衣を指示、外した手袋、ゴーグルはフレコンバックに廃棄するよう指示
- ・外側防護服脱衣、フレコンバックへの廃棄の指示 内側防護服には触らないように注意を促す
- ・インナー手袋をアルコールスプレーで消毒
- ・内側防護服のフードを降ろし、マスクと帽子を外してフレコンバックに廃棄するよう指示
- ・インナー手袋を外してフレコンバックに廃棄するよう指示

###### 清浄エリアでの作業

- ・退場レーン入口で長靴を脱ぐよう指示
- ・パレット上に誘導し、内側防護服の脱衣とフレコンバックへの廃棄を指示
- ・移動用の新しい防護服を着用するよう指示

- ・ レーン出口へ誘導、サンダル着衣を指示
- ・ 手洗い、うがいを指示
- ・ 休憩用テントまたはバスへ誘導



#### (ウ) その他

- ・ 班ごとの作業交代時間や休憩時間を発生地グループのリーダーへ知らせる
- ・ 防疫支援センターとサポート拠点間の移動用バスの運行管理(危機管理課)
- ・ 防疫資材の管理、補充、不足する場合は支援センターへ連絡
- ・ 発生地グループのリーダーと家畜防疫対策班の情報共有のための連絡調整(畜産課)。
- ・ 踏込消毒槽の消毒液の交換
- ・ サンダル、長靴の管理
- ・ 廃棄防疫資材の処理、フレコンバックの交換
- ・ 手洗い場の石鹸、ペーパータオルの補充、使用済みペーパーの廃棄
- ・ 翌日に使用する防疫資材の準備、不足する場合は支援センターへ連絡
- ・ 冬季においては使用する暖房器具の管理
- ・ 必要に応じて防疫作業者の熱中症予防(給水等)
- ・ 傷病者の応急対応と防疫支援センター等への連絡
- ・ 給食の管理・補充(家畜防疫対策班資材調達Gへ報告)

## 家畜防疫作業発生時における救護対応マニュアル

### 1 救護所の設営及び運営

#### (1) 対応者

防疫支援グループリーダー	農林事務所（畜産振興課）職員
救護担当職員	委託事業者看護師又は保健所保健師等（2名）

#### (2) 設営及び運営

- 防疫支援グループリーダーは、防疫支援センター内に救護所を設営し、全体的な運営を行う。
- 救護所の資機材は、現地対策班が防疫支援センターに適宜配置し、速やかに会場準備を完了する。
- 救護担当職員は、円滑な救護所の運営ができるよう防疫支援グループリーダーに対して設営及び運営について助言等を行う。
- 発生農場の管轄保健所の救護担当職員は、救護者が救急搬送や外来受診が必要な場合を想定し、管轄の消防本部及び救急医療機関等を調整し、連絡先を救護所に掲示する。

### 2 救護担当の編成・役割

#### (1) 救護担当の編成

初動対応（発生確認から翌々日の朝が目安）は、保健所保健師等が2名体制で対応する。

※班員については、保健政策課があらかじめ保健所保健師等の動員依頼を行い、「家畜防疫発生時の救護担当者名簿」（以下「担当者名簿」という。）を作成する。

※実際に、豚熱・高病原性鳥インフルエンザが発生した場合は、畜産課から提供された防疫作業スケジュールに基づき、保健政策課が担当者名簿により、各保健所次長に派遣者の確認を行う。

※発生地農場を管轄する保健所は、1班目のみの派遣とする。

※従事開始時間は、現地防疫支援センターの設置開始時間により変動する。

	日程	従事時間	保健師等			
			発 生 地 保 健 所	(保健師名)	〇〇 保 健 所	(保健師名)
1 班	1 日 目	0:00～8:00		(保健師名)	〇〇 保 健 所	(保健師名)
2 班	1 日 目	8:00～16:00	〇〇	(保健師名)	〇〇	(保健師名)
3 班	1 日 目	16:00～24:00	〇〇	(保健師名)	〇〇	(保健師名)
4 班	2 日 目	0:00～8:00	〇〇	(保健師名)	〇〇	(保健師名)
5 班	2 日 目	8:00～16:00	〇〇	(保健師名)	〇〇	(保健師名)
6 班	2 日 目	16:00～24:00	〇〇	(保健師名)	〇〇	(保健師名)

## (2) 従事時間

1 グループあたり原則として8時間勤務とし、次のグループへの引き継ぎが完了するまで待機する。

ただし、深夜帯における交代に支障がある等の理由がある場合には、勤務時間を変更することができる。

## (3) 救護担当職員（保健所保健師等）の招集

### (ア) 連絡時期

保健政策課は、畜産課から連絡（鳥インフルエンザは簡易検査、豚熱は家畜保健衛生所の遺伝子検査で陽性と判明し、防疫支援センターの設置場所が決定した時点）に基づき、発生農場管轄保健所、健康推進課に連絡する。

### (イ) 救護担当職員の招集

保健政策課から保健師等の動員要請を受けた保健所次長は、あらかじめ作成された担当者名簿により、当該職員に対し、防疫支援センターの所在地及び集合時間等を連絡する。

救護担当職員が所属する保健所次長は、動員職員の変更等の有無について保健政策課に報告する。

担当者名簿に記載された職員が対応できない場合は、原則、当該所属内で代替え職員を調整し動員する。ただし、所属内で調整が困難な場合は、保健政策課と健康推進課で派遣保健師を調整する。

### (ウ) 救護の実施

救護担当職員は、防疫支援グループリーダーの指示に基づき、防疫措置等を行う関係者等（以下「防疫作業従事者」という。）が体調不良等を訴えた際に、症状の聞き取りや応急手当等を行うとともに、必要に応じて救急搬送の要請を行う。

### (エ) 救護記録の作成・報告

救護担当職員は、別添報告様式により救護記録を作成し、原則として従事時間終了時に、防疫支援グループリーダーに報告を行う。

### (オ) その他

救護担当職員は、救護業務がない場合は、防疫作業従事者に対する健康調査（健康確認票回収等）業務に協力する（高病原性鳥インフルエンザ対応に限る）。

## 3 防疫作業従事者の健康確認

救護担当職員は、防疫作業従事者の健康確認、相談には対応を行わない。動員時に以下の健康状態の確認を依頼していることから、防疫作業従事者から該当する旨の申

し出があった場合には、防疫支援グループリーダーに対応を依頼する。

(所属長は、以下に該当する職員は動員しない。)

**【事前確認事項（豚・鳥共通）】**

- ①現在、喘息、心臓病、腎臓病、肝臓病、高血圧、血液疾患などの慢性疾患で治療・投薬を受けており、健康上の不安がある。
- ②37.5℃以上の発熱を呈している。
- ③その他、何等かの体調不良または健康上の不安がある。

**【事前確認事項（高病原性鳥インフルエンザ）】**

- ① 1週間以内に本人または家族がインフルエンザと診断された。
- ② インフルエンザ様症状（悪寒、頭痛、筋肉痛、関節痛、全身倦怠感、咽頭痛など）がある。
- ③ 鳥アレルギーがある。

(参考)

家畜防疫作業発生時の救護対応**必要物品**一覧(救護用としてまとめて配置する)

<農林水産部で準備> 消耗品は1箇所の農場で10日間従事した際の目安

NO	項目	規格	必要数	備考
1	AED	台	1	
2	自動血圧計(携帯用)	台	2	
3	交換用乾電池	本	—	発生時に調達
4	デジタル体温計(腋窩用)	本	5	
5	交換用コイン型電池	本	—	発生時に調達
6	使い捨てゴム手袋M	／箱	1	
	使い捨てゴム手袋L	／箱	1	
7	救急箱及び薬剤等	セット	1	消毒薬、絆創膏、ガーゼ、テープ等
8	飲料水(ペットボトル)500ml	／箱	1	熱中症対策、創傷洗浄等
	イオン飲料水(ペットボトル)	／箱	1	熱中症対策
9	アルコール手指消毒薬(1ℓ)	本	1	
10	ティッシュペーパー	／箱	5	
11	スクリーン(パーテーション)	枚	4	
12	簡易ベッド	台	2	マットレスでも可
13	使い捨てシート	枚	5	
14	担架	台	2	
15	タオル	枚	10	
16	バスタオル	枚	10	
17	毛布	枚	6	
18	ビニール袋(A5サイズ)	枚	—	適宜、嘔吐、氷のう等処置対応
19	ビニール袋(ゴミ袋)	枚	—	適宜
20	使い捨てマスク(不織布)	／箱	1	
21	筆記用具(マンツク、付箋、予備用紙等)		適宜	
22	パルスオキシメーター	個	1	
23	聴診器	本	1	
24	ペンライト	本	1	
25	防水シート(使い捨て)	枚	10	
26	次亜塩素酸ナトリウム(ミルトン・ハイター等)	本	1	嘔吐物処理時に使用
27	バケツ	個	1	嘔吐物処理時に使用
28	2Lペットボトル容器(キャップ付き)	個	1	嘔吐物処理時に使用
29	ディスポ袖付きエプロン(ビニール製)	枚	10	嘔吐物処理時に使用
30	ペーパータオル	100枚入り/組	10	嘔吐物処理時に使用
31	リーフレット(嘔吐物処理用) ①ノロウイルスに注意 ②ノロウイルス感染症を予防しよう!	枚	5	嘔吐物処理時に使用 ①消毒液の希釈方法 ②嘔吐物の処理手順
32	掲示物			パウチして準備しておく  「救護コーナー」 受付に注意喚起の掲示 「作業前・後の、健康相談はありません。 以下の方は、作業 従事中止を検討ください。 体温37.5……」
33	報告様式	枚	30	

## 防疫支援センター 救護対応報告書

農場名: \_\_\_\_\_

実施年月日 \_\_\_\_\_

(班) \_\_\_\_\_

従事時間 \_\_\_\_\_

~ \_\_\_\_\_

救護担当者 所属・氏名 \_\_\_\_\_

救護対応人数(実) \_\_\_\_\_

人

傷病者対応記録

	所属	氏名 (かな)	傷病の概況	対応・結果
1				<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業継続</li> <li>・応急処置</li> <li>・帰宅</li> <li>・受診勧奨</li> <li>・救急車搬送</li> </ul>
2				<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業継続</li> <li>・応急処置</li> <li>・帰宅</li> <li>・受診勧奨</li> <li>・救急車搬送</li> </ul>
3				<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業継続</li> <li>・応急処置</li> <li>・帰宅</li> <li>・受診勧奨</li> <li>・救急車搬送</li> </ul>
4				<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業継続</li> <li>・応急処置</li> <li>・帰宅</li> <li>・受診勧奨</li> <li>・救急車搬送</li> </ul>
5				<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業継続</li> <li>・応急処置</li> <li>・帰宅</li> <li>・受診勧奨</li> <li>・救急車搬送</li> </ul>

※各班作業終了時、防疫支援センターリーダーに報告すること

**作業前・後の、健康相談  
はあいません。**

**以下の方は、作業従事中  
止を検討ください！。**

**【豚熱防疫作業に従事する皆様へ】**

**体温 37.5℃以上**

**血圧 最高血圧 160mmHg以上**

**最低血圧 100mmHg以上**

**喘息、心臓病、腎臓病、肝臓病、高血圧、血液**

**疾患など慢性疾患で治療を受けており健康の**

**不安がある、体調不良や健康の不安がある方**

**【鳥インフルエンザ防疫作業に従事する皆様へ】**

**体温 37.5℃以上**

**血圧 最高血圧 160mmHg以上 最低血圧 100mmHg以上**

**喘息、心臓病、腎臓病、肝臓病、高血圧、血液疾患など慢性**

**疾患で治療を受けており健康の不安がある、体調不良や健**

**康の不安がある方**

**インフルエンザ様症状(悪寒、頭痛、筋肉痛、関節痛、全身**

**倦怠感、咽頭痛など)がある方**

**1週間以内に本人・家族がインフルエンザと診断された方**

# 救護コーナー

・ケガ・体調不良になった場合は、  
声をかけてください。

・作業前・後の、健康相談はありません。



# ノロウイルスに注意!!

冬季はノロウイルスが流行します。  
ノロウイルスは、口から体内に入り感染します。

日ごろから、**外出後、調理前、食事前、トイレ後**などには、必ず**液体石けんで手を洗う**習慣を身につけて感染を予防しましょう。

また、二次感染を防ぐため、**患者のふん便やおう吐物の処理にあたっては、使い捨ての手袋及びマスクを着用する**など十分注意をしてください。加えて、**汚物を処理した後は、液体石けんでしっかり手を洗いましょう。**

感染予防の基本は「**手洗い**」です。  
液体石けんを用い、**30秒以上**洗いましょう。



## ▶ 感染の原因

- (1) ウイルスに汚染された二枚貝などを、生あるいは十分に加熱しないで食べた。
- (2) 食品を取り扱う人(家庭で調理を行う人も含まれます。)が感染していて、その人を介して、ウイルスで汚染された食品を食べた。
- (3) 患者のふん便やおう吐物から二次感染した。  
★家庭や共同生活施設など、ヒト同士が接触する機会の多いところでヒトからヒトへ直接感染するケースも多いと言われています。

## ▶ ノロウイルスに感染すると？

潜伏時間(感染してから発症するまでの時間)は、約24～48時間、主な症状は、吐き気・おう吐・下痢・腹痛で、発熱は軽度です。

通常、これらの症状が1～2日続いた後、治ります。後遺症もありません。感染しても発症しない場合もあります。なお、ノロウイルスは、何度も感染します。

症状が消えても数日、長い人で1ヶ月近く、ウイルスがふん便とともに排泄されます。

子どもやお年寄りなど抵抗力が弱い人は、特に注意してください。

## ▶ ノロウイルス感染の予防や拡大を防ぐ方法

- (1) とにかく石けん(液体石けんがおすすめ)で手をよく洗う。  
★外出後、調理前、食事前、トイレ後には、必ず石けんでしっかり手を洗いましょう。
- (2) 患者のふん便やおう吐物には、直接触れない。  
★患者のふん便とおう吐物には、大量のウイルスが含まれています。ノロウイルスは少量(10～100個程度)でも、手などを介して感染します。ふん便やおう吐物は使い捨ての手袋及びマスクなどを着用して処理しましょう。
- (3) 汚染された場所や衣類などを消毒する。
- (4) カキやアサリなど二枚貝の加熱調理(食品の中心部で85～90℃で90秒間以上)を徹底する。

## ▶ 消毒方法の目安

- (1) 熱湯あるいは蒸気消毒……………85℃以上で1分以上
- (2) 塩素系消毒剤(次亜塩素酸ナトリウム) ……0.02%(200ppm) 又は0.1%(1000ppm) ▶約10分

※塩素系消毒剤は、消毒対象物(裏面参照)によって濃度を変えて使用してください。

※塩素系消毒剤には、商品としてピューラックス、ミルトンなどがあります。なお、代用品として塩素系漂白剤(商品名:ハイター、ブリーチなど)も使えます。

※塩素系消毒剤を使って、手指などの体の消毒をすることは絶対にしないでください。また、塩素系消毒剤に酸性物質を混ぜると有毒ガスが発生し、大変危険ですので注意してください。

詳しくは最寄りの保健所へおたずねください。また、感染症や食の安全に関する情報は下記HPでご覧いただけます。

**感染症に関する情報** ▶ <https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/idwr/index.html>

**食の安全に関する情報** ▶ <https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/seiei/eisei/syokuhin.html>

## ▶ 消毒液（次亜塩素酸ナトリウム希釈液）の作り方

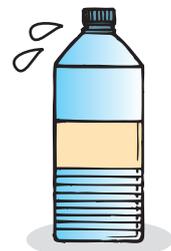
市販の塩素系消毒剤や漂白剤は、6%くらいの濃度（使用前に表示確認）です。空ペットボトル（2ℓ）などを用い、消毒液が簡単に作れます。

### ● 0.02%（200ppm）次亜塩素酸ナトリウムの作り方

★ペットボトルのキャップ1杯は約5mlです。

**原液が6%の場合** ペットボトルキャップ2杯弱の原液を水で2ℓに希釈する。

➡ 食器、衣類などの消毒に用いてください。  
ただし、色落ちに注意してください。



### ● 0.1%（1000ppm）次亜塩素酸ナトリウムの作り方

**原液が6%の場合** ペットボトルキャップ8杯強の原液を水で2ℓに希釈する。

➡ ふん便やおう吐物などの汚物を除去した後用いてください。

★消毒液を作る際は、手袋を着用してください。消毒液は冷暗所に保管し、子どもなどが触れないよう注意してください。

★時間が経つにつれ効果が薄れますので、使用するたびに調整して下さい。

## ▶ 患者のふん便・おう吐物の処理

- 1 準備品**
- 使い捨て手袋
  - マスク
  - エプロン
  - ふき取るための布やペーパータオル
  - ビニール袋
  - 消毒液（次亜塩素酸ナトリウム）など

**2** 使い捨ての手袋とマスク、エプロンを着用する。



### トイレが汚染された場合の消毒

**3** ふん便で汚染された便座や床は、0.1%次亜塩素酸ナトリウムを十分しみ込ませた使い捨ての布やペーパータオルでふく。量が多い場合は、使い捨ての布やペーパータオルでふき取り、その後、次亜塩素酸ナトリウムを十分しみ込ませた布やペーパータオルなどでふいて（同一面でこすると汚染を拡げるので注意）消毒する。

**4** 使用した布などは、すぐにビニール袋に入れて処分（この際、ビニール袋に0.1%次亜塩素酸ナトリウムをしみ込む程度に入れておく）する。その後、手をウイルスで汚染しないよう手袋をはずして（外側を内にする）、ビニール袋に入れて処分する。終了後、しっかりと手洗い、うがいを行う。

### おう吐物の処理

**3** おう吐物は使い捨ての布やペーパータオルなどで外側から内側に向けて、ふき取り面を折り込みながら静かにぬぐい取る。

**4** 使用した布やペーパータオルなどは、すぐにビニール袋に入れる。

**5** おう吐物が付着していた床とその周囲を、0.1%次亜塩素酸ナトリウムを十分しみ込ませた布やペーパータオルなどでおい消毒（次亜塩素酸ナトリウムは鉄などの金属を腐食するので、ふき取って10分程度たったら水ぶき）する。

じゅうたんなど脱色する物の消毒には、水ぶき後、スチームアイロンの使用も有効です。

**6** 処理後は、手袋をはずしてしっかりと手洗い、うがいを行う。手袋は、使用した布やペーパータオルなどと同じようにビニール袋に入れて処分する。

### 留意事項

- ・ 汚物の処理時とその後しばらくは、大きく窓を開けるなどして換気してください。
- ・ 汚物処理のために着用したエプロンなどの着衣は、すみやかに熱湯などで消毒してください。
- ・ 汚物を処理した後、48時間程度は感染（発症）の有無に注意してください。もし、感染が疑われるような場合には、医師の診察を受けてください。

# ノロウイルス感染症を予防しよう！

ノロウイルス感染症患者の便や嘔吐（おうと）物中には大量のノロウイルスが存在します。

## 《床などに飛び散った患者の嘔吐物の処理方法》

～日ごろより用意しておくもの～

- マスク ●エプロン ●手袋（2組あると便利です） ●新聞紙 ●ビニール袋 ●汚物入れ
- 古タオルまたはペーパータオル等 ●塩素系消毒薬・計量カップ ●消毒液作成用バケツ

塩素系消毒液（1,000ppm）を約3リッター作成する

作りたい濃度	原液の濃度		希釈倍数		原液	水
0.1% (1,000ppm)	1%	の場合	10倍	にする	330ml	3L
	6%		60倍		50ml	3L
	12%		120倍		25ml	3L

- 嘔吐物の処理は1,000ppmでお願いします。 ●塩素系消毒薬は漂白作用があります。
- 必ず手袋をして肌などに直接接触しないようにお願いします。



### 処理をする前に

1. 周囲にいる人を離れた場所へ移動させ、窓を開けるなど換気します。
2. 嘔吐物の飛散を防ぐため、新聞紙やペーパータオルなどで覆います。
3. 嘔吐した人に対する対処を行います。
4. 嘔吐物の処理を行います。

【1・3はできれば同時進行で、嘔吐物の処理は最少人数で行います。

嘔吐物は素手で触らない（手袋を使用します）】

1. マスク、使い捨てのガウンまたはエプロン、手袋をする。



2. バケツに消毒液を作り、その中に新聞紙やタオルなどを浸す



3. まず、新聞紙で嘔吐物を取り除き、次にタオルで拭く



4. 拭き取った新聞紙やタオルはビニール袋へ入れる



5. すべて入れ終わったビニール袋の口をしっかりと縛る。



6. 嘔吐物入りのビニール袋を、別のビニール袋へ入れる



7. 同じ袋に使用した手袋なども一緒に入れ、しっかりと縛る。

8. 嘔吐物を拭き取った場所は、消毒薬で湿らせたタオルなどでしばらく（10～30分）覆っておく。  
 ※吐物は半径2～3mぐらいまで飛び散るので、広い範囲を消毒するとともに靴底の消毒もする。  
 ※塩素系消毒薬は、金属を腐食させるので良く拭き取り10分くらいしたら水で拭く。

9. しっかりと手洗い、うがいをする。

家畜防疫支援センターでの救護担当者名簿【豚熱・鳥インフルエンザ共通】

班	日程	従事時間(想定) (原則8時間勤務)	保健師																	
			発生場所:中央(水戸含む)管轄		発生場所:ひたちなか管轄		発生場所:日立管轄		発生場所:潮来管轄		発生場所:竜ヶ崎管轄		発生場所:土浦管轄		発生場所:つくば管轄		発生場所:筑西管轄		発生場所:古河管轄	
1班	1日目	0:00 ~ 8:00	中央	ひたちなか	ひたちなか	日立	日立	潮来	潮来	竜ヶ崎	竜ヶ崎	土浦	土浦	つくば	つくば	筑西	筑西	古河	古河	中央
2班	1日目	8:00 ~ 16:00	日立	潮来	潮来	竜ヶ崎	竜ヶ崎	土浦	土浦	つくば	つくば	筑西	筑西	古河	古河	中央	中央	ひたちなか	日立	ひたちなか
3班	1日目	16:00 ~ 0:00	竜ヶ崎	土浦	土浦	つくば	つくば	筑西	筑西	古河	古河	中央	中央	ひたちなか	ひたちなか	日立	日立	潮来	潮来	竜ヶ崎
4班	2日目	0:00 ~ 8:00	つくば	筑西	筑西	古河	古河	中央	中央	ひたちなか	ひたちなか	日立	日立	潮来	潮来	竜ヶ崎	竜ヶ崎	土浦	土浦	つくば
5班	2日目	8:00 ~ 16:00	古河	ひたちなか	中央	日立	ひたちなか	潮来	日立	竜ヶ崎	潮来	土浦	竜ヶ崎	つくば	土浦	筑西	つくば	古河	筑西	中央
6班	2日目	16:00 ~ 0:00	日立	潮来	潮来	竜ヶ崎	竜ヶ崎	土浦	土浦	つくば	つくば	筑西	筑西	古河	古河	中央	中央	ひたちなか	日立	ひたちなか
7班	3日目	0:00 ~ 8:00	竜ヶ崎	土浦	土浦	つくば	つくば	筑西	筑西	古河	古河	中央	中央	ひたちなか	ひたちなか	日立	日立	潮来	潮来	竜ヶ崎
8班	3日目	8:00 ~ 16:00	つくば	筑西	筑西	古河	古河	中央	中央	ひたちなか	ひたちなか	日立	日立	潮来	潮来	竜ヶ崎	竜ヶ崎	土浦	土浦	つくば

※発生地農場を管轄する保健師は、第1班のみ派遣。オレンジ着色部分は主査・係※発生地農場を管轄する保健師は、1班として派遣。健康相談会場の設営等があるため、オレンジ着色部分は主査・係長以上の方での対応を想定。  
 ※2日目以降、順次委託業者看護師に交替される予定。

令和5年度 家畜防疫作業発生時の救護担当者名簿

R5.10現在

保健所名	派遣順位	課名	職名	氏名	備考
中央	1				
	2				
	3				
ひたち なか	1				
	2				
	3				
日立	1				
	2				
	3				
潮来	1				
	2				
	3				
竜ヶ崎	1				
	2				
	3				
土浦	1				
	2				
	3				
つくば	1				
	2				
	3				
筑西	1				
	2				
	3				
古河	1				
	2				
	3				